

海外リポート

米 横浜市米州事務所副所長

西川 勝裕

年明けから米国では大型展示会が続く。毎年1月にラスベガスで開催される世界最大級のテクノロジー見本市CES(シーイーエス)では、世界最先端のテクノロジーとイノベーターが集い、新商品が発表される。今年は4日間で、人工知能(AI)、

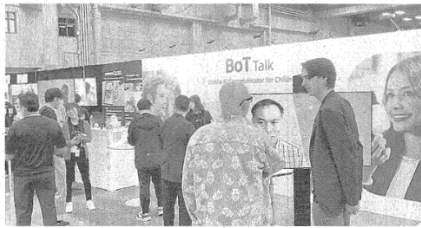
デジタルヘルス、ロボティクス、モビリティ、フードテックなど多岐の分野の約13万人が参加した。日本からも70以上の企業・団体が出展し、ジャパンパビリオン・日本スタートアップは30社以上だった。
毎年3月にテキサス州オース

横浜企業の進出支援

ティンで開催される世界最大級のコンバージェンス(融合)カンファレンス&フェスティバル「SXSW(サウスバイサウスウエスト)」も注目だ。元は音楽を中心に世界のクリエイティブ人材が集まる場から始まったが、今では街全体で展示会、セッション、ピッチ、ネットワー

キング、ライブショー、映画上映が行われる一大イベントになっている。
例年、世界各国のスタートアップや投資家はもちろん、さまざまな業界・業種の人々が30万人規模で集まり、今年の米国外からの参加比率は約30%で、年

々その比率は高まっているという。17の日系企業等もブース出展し、商談や情報収集に活発であった。
こうした展示会を使って米国進出を目指す横浜発スタートアップの活発な動きも見られる。昨年度当事務所の米国展開支援プログラムに参加したWILL



SXSWにおけるビーサイズ社の出展ブース

LT EX(横浜市中区)は今回、スマートフォンで温度調節が可能な世界初のポータブル布製加熱レンジャーバッグでCESに出展。同製品は、特に評価された。出展製品の中でも、家庭用品部門で最高評価であるベスト・オ

プ・イノベーションを受賞し、出展を機に国内外のメディアの注目を集めている。
子どもの見守り用にトークとGPS機能付のデバイスを開発するビーサイズ(横浜市港北区)は昨年米国での実証を進め、既に米国法人を設立。3月のSXSWにもブース出展した。同社代表の大野氏は「日本のものづくり技術の粋を集め、小型で軽量だが機能性に優れた製品の良さが対面の展示会だからこそしっかりと伝わった」と今年秋の本格販売開始に向けた手ごたえを語る。
当事務所としても、こうした展示機会を米国進出を目指す横浜市内企業が必要とする情報やネットワークを得られるよう支援を継続していく。